

# 障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	精神2級（発達障がい）

2. 職場情報	
業種	工場副資材卸売業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	5日間	勤務時間	7時間/日
実習内容	ピッキング等		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終日には、実習先・本人・就労移行支援事業所を交えて実習の振り返りを行った。本人には、学習障害があり、計算や大きい数への対応に時間がかかるため、雇用するようであれば、10コを一つの単位にして、電卓を用いて大きい数を数えるような配慮が必要であることを確認した。</li> </ul>		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>10個を1つの単位として数えながら業務を進められるようにした。</li> <li>作業後には、本人自身がダブルチェックを行うようにしてミスを未然に防げるようにした。</li> </ul>		

4. 就職後の様子	
仕事内容	ピッキング等
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを取ることが苦手なため、担当業務を固定するとともに、上司（担当者）も固定している。</li> <li>やむを得ず上司の変更や交代がある際には、上司同士での情報交換と本人への説明を行うこととした。</li> </ul>
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の職場訪問を行い、本人や企業の責任者・現場責任者と情報共有を行った。</li> <li>本人が就職前に所属していた就労移行支援事業所の行事等に積極的に顔を出して、仲間とコミュニケーションを取ったり、職員に悩みごとを打ち明けたりするよう本人へアドバイスをした。</li> </ul>
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の向き不向き等、働いてみないとわからないことが多くあったが、チャレンジトレーニングを通して本人のことがよく理解できた。今後もチャレンジトレーニングを活用していきたい。</li> </ul>